

= あんたが頼り =

4月から5月にかけて、少し早めにスタートした基幹労連ふれあい対話集会。より多くの県本部・県センターに伺えるようスケジューラーに頼み、対面希望までお願いしてきた。

コロナウイルス感染状況も医療関係者、自治体、そして感染防止に向けた国民の努力もあり、GW期間中の行動制限も3年ぶりに解除された。三密を避けるため、少し遠くの席ではあったが、まさに「対話（双方向かい合って話をすること。）」のできる集会を開催していただいた。

群馬県本部を皮切りに、宮城、東京、千葉、北海道、茨城、岡山、愛媛と1都、1道、6県を回ることができた。一人ですべての県本部・県センターはお伺いできなかったが、中央本部より対応した副委員長、事務局長たちから、感染防止策はもとより、開催内容に工夫を凝らしながら、ほぼ対面で開催いただいたと聞く。ありがたい。

ふれあい対話集会は、活動の振り返りと次の運動方針・活動方針を策定していくためのディスカッションの場。だが、今回のメインテーマは、捲土重来を期した政策実現の心合わせ。そのことを知っているからこそ、各県本部・県センターでは対面開催に尽力していただいた。

村田きょうこの対面がかなわなかった会場も含め、きょんきょんポスター、手作りグッズ、顔出しパネル、ピンクの手袋・マスク・手ぬぐい・ジャンパー等での盛り上げ…。そんなふれあい対話集会の状況や、村田きょうこの全国オルグの状況を見聞するにつけ、感謝・感謝の思いでいっぱいである。

その一方で、一抹の不安もよぎる。私自身の長い組合専従期間の中で、これほどの盛り上がりを経験したことがない。集まってくれた多くの皆さん、SNS等を通じて応援いただく皆さんがピンクのきょんきょんカラーであることは間違いないだろう。ただ、それが第一線の仲間のみんなに届いているだろうかと…。

二度、三度の戦いに負けた国政選挙。その敗戦から学んだ組織力の再生戦略にもとづいた各種取り組みの実行、そのもとの、勝つための頼みの綱は組合員と…。

取り越し苦労、杞憂（きゆう）ならいいが。杞憂とは、「古代中国の周の時代にあった紀という国の人が、天が崩れて落ちてきはしないかと心配したという故事から、心配することのないことをあれこれ心配すること。」をいう。

そんな気持ちを晴らすため、少し脱線しつつ、想いを伝えたい。

今年初めの委員長メッセージ。ちょっと楽しく書きすぎた感ありだが、関西以外の人からも笑いの声が届いた、テーマ：知らんけど…

でも、こんなのはいただけない。「こんだけ盛りあがったたら、当選するんちゃうん・・・知らんけど。」他人ごと、それだけは許してほしい。

きょんきょんファンの皆にお願いする。偉そうにすみません、お願いします。

以心伝心（心の内で思っていることが、声に出さなくても互いに理解しあえること。）という良い言葉はある。しかし、現実に確実に通じ合うためには、何度も、何度でも繰り返しが必要。「あんたしかおらん」「あんたしかおらんねん」。村田を勝たせてあげたい。そしたらきっと、あんたを笑顔にしてくれる。あんたとその家族、すべての働く人、生活者、女性の代表として、み～んなを笑顔にしてくれる。もちろん、私も笑顔になれる。そんな言葉を、声をかけてほしい。

役員の皆さんは、組合員の仲間。きょんきょんを応援いただいている皆さんは、家族に、友達に、もっともっと広めてほしい。各組織が、ひとり一人が、深く深くピンクの色に染まる時、私たちは勝てる。

蒸し暑い梅雨入りまちか。熱中症に注意しながらも、きょんきょんには熱中を。

決戦まで39日、村田きょうこ39歳。必ず・勝つ！

ご安全に

2022年6月1日

日本基幹産業労働組合連合会
中央執行委員長 神田 健一